

研究発表 レジューメ

● 神奈川の巨石信仰

皆神 隆 (超歴史研究会)

- ・1991年「超歴史研究会」を創始、会長として、正史の陰にある真の歴史を追及する。フィールドワークを中心とした活動を続けている。
- ・佐治芳彦氏、鈴木旭氏等の著作に感化され、歴史と巨石の魅力に惹きつけられて、日本各地の巨石遺構等を訪ね、その情報をインターネットのホームページを通して発信している。
- ・第1回イワクラサミットより参加しており、イワクラ学会設立に至って、理事に就任。

相模の名峰「大山」には「大山阿夫利神社」が奈祀されており、山頂には奥社があつて、その下には御神体の「石尊権現」があり、メンヒル状の石と言われている。山中には文字が刻まれた石があり、エジプト象形文字の「ラー(日)」が書かれているという。

大山の真東には「日向山」があり、その東側には「亀石」をはじめとする巨石群が存在することを発見した。これは大山の拝殿であると思われる。

さらに日向山の東南にヨセフの墓という説がある真馨塚があり、付近には古墳と思われる塚が多く、ほとんどは真馨塚の倍塚と言われている。近くには三ノ宮「比々多神社」があり、神武6年創建という古社であり、真馨塚のほとんど真南に位置することから、真馨塚を祀るために造られた可能性がある。

日向山、真馨塚、比々多神社は、南北にほぼ直線上に位置することから、意図的に配置されたものと思われる。大山の拝殿である日向山は縄文以来の巨石信仰を残し、日向山を意識して真馨塚が造られ、日向山、真馨塚を祭祀する目的で比々多神社が造られたものと考えられる。

● 熱海の海底遺跡に見た古代～中世期の港跡

国次 秀紀 (熱海の海底遺跡保存会)

潜水指導団体 日本海中技術振興会(JCS) 常任理事 昭和24年10月7日大分県別府市生まれ56歳

ダイビングショップ プロテックスジャパン代表 熱海市在住47年

潜水歴 36年(昭和44年より) 潜水指導歴 31年、

「熱海の海底遺跡は港湾都市・ハブ港だった!」と発表すると、今までの歴史や海事、交易・通交研究者からそんなもの有る分けが無いと言われそうだが、海底に潜るとその遺構の精密さやスケールの大きさに驚愕すると思う。この遺跡は海底深く沈む事によってその形態をつぶさに残しているが、沈んだ経緯を考えた時、その記録の皆無と言った状態には呆れ返る。何故記録が無いかを誰でもが考えるが、仮に有ったとすればこの様に困惑する事も無かったのではと考えるばかりだ。徐々にだがこの港の管理者であるその寺社を調べるに至って解明の糸口なるものが見えて来た。その概要を発見時からの経緯に従って確信を得る発見までを述べて行くが、その中にはこれまでに多方面で発見されていない大型の灯台や造船所・修理用ドック、大型の棧橋とそれを取り巻く小港と集落までもが存在する。そして、ここ熱海の伊豆山に鎮座している旧走湯山(現在は伊豆山神社と般若院)と古来よりの皇氏族の動きを追って見る時、明らかにかかなりの大きさの港が有った事が分る。歴史を探るにあたり、この港に着眼した人達が居た。

役の小角、阿倍晴明、坂上田村磨、源義家や源頼朝、そして有力な皇氏族達であった。

● 磐座雑考

佐藤 光範 (岡山県倉敷市在住)

昭和5年(1930)9月7日生
私立興譲館中学校
旧制第六高等学校理科一年終了
岡山大学理学部中退
神戸商船大学航海科一期生
三井船舶株式会社航海士
日本海事検定協会検査員
衆議院議員地元秘書
AFLACの代理店専務

星と太陽の会 世話人(毎月第三日曜日磐座探索)
古代吉備国を語る会(春・秋の第二日曜日か第4日曜日)
考古学研究会(毎月第二土曜日)
熊山積石遺跡保存会(毎月第四土曜日)
石棚古墳見学(全国の石棚古墳を集計し見て歩く)
古代地名語研究・・・(常時)
盃状穴・壺泉穴研究・・・(神社を参拝した時注意して見る)

【著書】

平成3年7月	「奇想天外な地名考古学」	近代文芸社
平成6年12月	「日本中 隼人族」	
平成4年10月	「磐座」	磐座研究会
平成14年6月	「どうだ!銅地名が歴史を掘る」	

磐座の研究が盛んになって喜ばしいことだ。ある人は、一カ所の磐座に集中してその発生源を追及する。ある人は、線を引いて磐座が一直線に並ぶことを発見する。そこからいつ迄も「誰が」「何時」「何の目的で」等の答えが出てこない。

私は県内中心に、20年の間継続して、毎月1基〜4基の磐座を探し続ける活動の結果、存在する場所「where」は県内約500ヶ所程度押さえた。「誰が who」「何時 when」という答えは私の一生では見つけられないということも分かってきた。「磐座は何か what」「何の為の祭祀か why」が少し理解出来るものもあった。

そこから「古代地名語」の研究にも進むことになる。宮崎での発表は「地名は字ではなく、発音に冶金の意味がある」という「弥生時代には稲作文化だけでなく、銅冶金文化の世界」というユニークなものになればと。。。。。

● 九州の巨石文化・ペトログリフが明かす1万年の超古代

武内 一忠 (NPO日本巨石文化研究所 理事長)

1947年3月17日生(日田市出身)熊本在住 尚?大学平成7年紀要論文「古代人の住生活(ペトログリフ)について」
NPO日本巨石文化研究所総経 理事長
巨石文化研究・ペトログリフ比較文化研究・古代ケルト祭司文化研究
平成5年〜8年熊本新評に「熊本のペトログリフ」連載
1993在、第20回アメリカ岩石芸術学会(リノ市)にて「ペトログリフ岩の磁気異常発見」を発表
日本文化デザイン会議イン福岡で「熊本のペトログリフ」講演

熊本阿蘇を中心とする中九州、そして暖流の玄関にあたる天草。これらの地域に数多くの巨石文化とペトログリフが点在していた。それらの多くは数万年前から何らかの祭祀に用いられたといわれるカップマーク(盃状穴)やアイルランド、スコットランドの海岸域に見られるカップ&リングマークで、また石版を積みちヤンパー、ドルメン、メンヒル、ストーンサークル、マウンド、横穴遺跡などヨーロッパに見られるものと同等のものであった。これはこれらの巨石文化を搬入した海洋民族の度重なる伝播または流出の歴史を示すものでもある。

私は、阿蘇押戸石山の巨石群をランドマークと考え、その構造から古代太陽の法則(夏至線、冬至線、彼岸線)を基に、金峰山系の拝石山巨石遺跡、阿蘇高森の清栄山の巨石、阿蘇西原村山ノ神ペトログリフ遺跡、天草通詞島ドルメン、鬼の基盤石、姫戸の巨大ドルメンなど古代の海洋民族が築いた巨石文化を見つけた。また、その巨石には強烈な磁気異常が存在することも発見した。

これらの巨石文化を詳細に分析していくことによって、私はある一万年超古代から近くはフェニキア人や古ヘブライ人、彼らに帯同したケルト系海洋民族やマカン海人族など、ペトログリフやカップマークを持って世界に頒布した海洋民族が永久の時代を経て「古代地球は一つ」であったことを私たちに当たりかけていることに気付いた。

● 霧島周辺の巨石遺構

昭和41年10月 宮崎市生
NPO法人宮崎文化本舗職員
イワクラ(磐座)学会理事
宮崎県民俗学会会員

谷口 実智代 (NPO法人宮崎文化本舗)
ホームページ「猫ぼす堂」「日向之国風土記」主催

宮崎県および鹿児島県にまたがる霧島火山帯は、6つの火口を持つ火山の集合地帯である。古来信仰の対象とされ、親しまれてきたこの霧島の周辺には巨石を奉る神社や謎の巨石群、また景勝地となっている巨岩などが存在する。これは霧島を対象とした巨石信仰ではないか。この地は、歴史上「熊襲族」「隼人族」と呼ばれ、まつろわぬ民とされた南九州の先住民が暮らした土地でもある。では、この巨石を地上に置き、霧島を囲む神域を形成したのはそれらの人々だったのだろうか。だとすると彼らの世界観はどのようなものであったのか。

えびの市から小林市に広がる山脈は、加久藤カルデラの外輪山であり、都城盆地はその内部にある。この外輪山の山中に巨石はある。えびの市クルソン峠のクルソン仏や小林市の陰陽石は、谷あい不起立する陽石である。同じような石は大隈半島中央部の吾平町にも見られる。また、えびの市矢岳高原一帯には、人工的な石組みがネットワークを形成しているかのように尾根の突端にを中心に配されている。このような石組みは、霧島神宮周辺でも見られ、霧島山をはさんで南北に位置する。また、霧島の東、都城盆地を縦断するように、単独の小山または尾根の突端の山上にイワクラを有する神社が北斗七星の形に配されているのを発見した。

● 月天子講と母系制社会への追憶

鈴木 旭 (イワクラ学会副会長)

宮崎県、すなわち、日向国は神武天皇が東征戦に決起された船出の地として知られている。県内の史跡は悉く神武一色に塗り潰され、異論を差し挟む余地のない程である。しかし昨年春、生目古墳群と笠置山墳丘墓、そして、西都原古墳群などの遺跡や観光地、神社などを見学中、意外なモノに出会ったことで印象が逆転してしまった。

それは「月天子講」の石碑、そして、岩戸神社における女陰石と杯状穴、鶴戸神宮における洞窟とおちちいわ等々、次々に出会う時代を超えて脈々と語り伝えられる女性本位、母系優先の家族制度と社会＝国家の現実であった。男性優位、男系本位に語られる歴史と神話とはまったく違う事実と直面した。

地元の研究者に聞いたところでは、月天子講のような女性の集まりは大淀川流域に集中しているという。しかも、上流は丸っこい自然石をイワクラ(磐座)として好んで使用しており、下流は平らな石を好むという。その違いは、どこからくるのだろうか。

ふらりと訪れた旅人の目で見たまま、聞いたままを感想文にして並べて宮崎県民に問題提起してみたい。答はまだない。しかし、意外な答が隠されているのかもしれない。